

大学の教育・学生支援の方法は今までと大きく変えざるをえない状況になりました。どのような状況であっても、学生の学習機会、そして学生生活を充実させる支援を維持向上させるのが大学の使命です。愛媛大学でも遠隔によるさまざまな教育・学生支援に取り組み、少しずつその成果と課題が明らかになってきました。データから現状を読み取ることを通して、個々の教職員それぞれが授業やカリキュラムにおいて今後何をどのようにしていくべきかを考えてみませんか。

遠隔授業受講用の学習スペース開放を知っている学生 **88%**^{※1}



遠隔による取り組み

遠隔による国際交流プログラム参加学生



685名^{※5}

(2020年度。留学生411名、日本人学生274名)

移動が制限されていても、異文化理解や諸外国への関心を高めることはできる



遠隔による学習相談を受けた学生 **117名**^{※2}

キャンパスの外からも学習資源にアクセスできることを伝えよう



図書館の電子書籍アクセス数

4.8倍^{※3}

(2020年度/2019年度)

新たな学習資源として電子書籍が機能し始めている

2020年度以前に遠隔授業の実施経験がある教員 **14%**^{※4}



遠隔授業の実施にあたり、学内のホームページなどで情報収集した教員 **83%**^{※4}

遠隔授業の実施に向けて学習している教員も多い



遠隔による就職セミナー参加者

2,471名^{※6}

就職に関する情報を入手できる機会は今までより増えている

取り組みの成果

卒業予定者の大学生生活総合満足度

89%^{※7}



入ってよかったと思いつけてもらえる大学を目指そう

データから考える愛大授業改善

遠隔による教育・学生支援その成果・課題

VOL.06

遠隔による部活・サークル紹介や新歓に参加した学生

25%^{※1}



より多くの学生に伝わるように学生自身も工夫している



遠隔授業の動画教材を後で見直した学生

81%^{※8}

遠隔授業ならではの学びの機会を活かす学生は多い

遠隔授業に対する満足度

52% (2020年度前期) → **70%** (2020年度後期)^{※9}

遠隔授業に対する工夫の成果は少しずつ出ている

愛大学生コンピテンシーの習得率

92%^{※7}

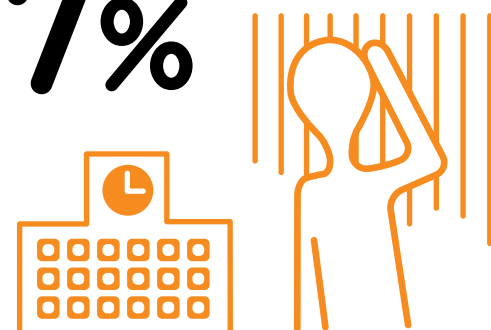


学習成果は高い水準で維持し続けている

解決すべき課題

充実した大学生活を送れるか不安な学生

77%^{※8}



部活・サークル活動をしていない学生

65%^{※8}

授業でも学生同士がつながる機会をつくったり、準正課教育や正課外活動を積極的に紹介しては

愛大学生コンピテンシー <https://www.ehime-u.ac.jp/overview/competency/>

愛大学生コンピテンシー 🔍

SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) <https://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

SPOD 🔍

愛媛大学 教育企画室 <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>

教職員能力開発拠点 🔍

※1. 令和2年度新入生夏季アンケート
 ※2. 学生支援センター提供データ(令和2年度)(延べ人数)
 ※3. 図書館提供データ
 ※4. 令和2年度遠隔授業に関する教員アンケート
 ※5. 国際連携提供データ

※6. 就職支援提供データ(延べ人数)
 ※7. 令和2年度卒業予定者アンケート
 ※8. 令和2年度後学期アンケート
 ※9. 令和2年度新入生夏季アンケート、令和2年度後学期アンケート

データから考える愛大授業改善 VOL.06